

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 10 月 19 日 (2006.10.19)

【公開番号】特開 2006-169789 (P2006-169789A)

【公開日】平成 18 年 6 月 29 日 (2006.6.29)

【年通号数】公開・登録公報 2006-025

【出願番号】特願 2004-362429 (P2004-362429)

【国際特許分類】

E 0 6 B 5/00 (2006.01)

E 0 6 B 3/66 (2006.01)

【F I】

E 0 6 B 5/00 C

E 0 6 B 3/66

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 8 月 30 日 (2006.8.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

この第 5 実施例の窓用結露防止・断熱装置 M の組立、ガラス障子 (S) への取付は、第 1 実施例と同様になるので、その説明を省略する。

なお、窓用結露防止・断熱装置 M の厚さは、枠体 1 1 をガラス障子 (S) へ取り付けられた状態で、障子枠 (F) が形成する面 (f) から突出しない厚さとされている。

そして、窓用結露防止・断熱装置 M をガラス障子 (S) へ取り付けると、窓ガラス G と板状体 2 1 との間に 2 mm 以上の厚さの密閉された空気層 a が形成される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

この第 6 実施例の窓用結露防止・断熱装置 M のガラス障子 (S) への取付は、第 1 実施例と同様になるので、その説明を省略する。

なお、窓用結露防止・断熱装置 M の厚さは、枠体 1 1 をガラス障子 (S) へ取り付けられた状態で、障子枠 (F) が形成する面 (f) から突出しない厚さとされている。

そして、窓用結露防止・断熱装置 M をガラス障子 (S) へ取り付けると、窓ガラス G と板状体 2 1 との間に 2 mm 以上の厚さの密閉された空気層 a が形成される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

この第 7 実施例の窓用結露防止・断熱装置 M の組立、ガラス障子 (S) への取付は、第 6 実施例と同様になるので、その説明を省略する。

なお、窓用結露防止・断熱装置 M の厚さは、枠体 1 1 をガラス障子 (S) へ取り付けられた

状態で、障子枠（F）が形成する面（f）から突出しない厚さとされている。

そして、窓用結露防止・断熱装置 M をガラス障子（S）へ取り付けると、窓ガラス G と板状体 2 1 との間に 2 mm 以上の厚さの密閉された空気層 a が形成される。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 7】

M	窓用結露防止・断熱装置
1 1	枠体
1 2	枠部材
1 2 a	取付板状部
1 2 a h	第 1 開口
1 2 b	連結部
1 2 c	枠体部
1 2 c h	第 2 開口
1 2 c a	段差（取付部）
1 2 c b	凹部（取付部）
1 2 c x	補強部分
1 2 c s	挿通孔
1 2 d	シール材
1 3	連結片
1 3 a	連結部
1 3 s	ねじ孔
1 4	皿ねじ（固定ねじ）
2 1	板状体
3 1	化粧板
3 1 h	開口
4 1	広告媒体
S	ガラス障子
F	障子枠
f	面
G	窓ガラス
P	ゴムパッキング（シール材）
a	空気層